

令和4年4月27日
総合政策局
水管理・国土保全局

アジア太平洋地域の水問題の解決に向け日本の取組を発信 ～第4回アジア・太平洋水サミットの開催結果について～

齊藤国土交通大臣、中山国土交通副大臣、加藤国土交通政務官が、熊本県熊本市で開催された「第4回アジア・太平洋水サミット」に出席しました。開会式や首脳級会合に出席したほか、各セッション・分科会に登壇し、アジア太平洋地域の水問題の解決に貢献する日本の経験や技術を発信しました。

本サミットでは、アフターコロナの世界におけるSDGsの達成に向けた水問題の議論がされたほか、首脳級の決意表明である「熊本宣言」を始めとする成果がとりまとめられました。

また、齊藤国土交通大臣は、アジア太平洋地域との協力関係強化のため、サミット開催期間中に、インド、カンボジア、インドネシア政府要人との二国間会談等を行いました。

1. 第4回アジア・太平洋水サミット関係

齊藤国土交通大臣の参加

○4月23日（土）

- ・開会式
- ・首脳級会合
- ・特別セッション「ショーケース」（開催挨拶）



特別セッション「ショーケース」における齊藤国土交通大臣挨拶

中山国土交通副大臣の参加

○4月23日（土）

- ・開会式
- ・首脳級会合
- ・分科会「水と衛生／汚水管理」（開会挨拶）

○4月24日（日）

- ・分科会「地下水を含む健全な水循環」（閉会挨拶）
- ・統合セッション「ガバナンス」（開会挨拶）
- ・閉会式（大臣挨拶の代読）



分科会「地下水を含む健全な水循環」における中山国土交通副大臣挨拶

加藤国土交通政務官の参加

○4月23日（土）

- ・開会式
- ・首脳級会合
- ・分科会「水源から海までの水と環境」（閉会挨拶）



分科会「水源から海までの水と環境」
における加藤国土交通政務官挨拶

国土交通省の参加状況

○4月23日（土）

- ・開会式
- ・首脳級会合
- ・特別セッション「ショーケース」
- ・分科会「水源から海までの水と環境」、「水と衛生／汚水管理」

○4月24日（日）

- ・分科会「地下水を含む健全な水循環」
- ・統合セッション「科学技術」、「ガバナンス」、「ファイナンス」
- ・総括統合セッション
- ・閉会式

2. 二国間会談等関係

サミットの開催に併せて、齊藤国土交通大臣はインドのシェカワット水活力大臣、インドネシアのバスキ公共事業・国民住宅大臣と、中山副大臣はウズベキスタンのナザロフ・アジムジョン水資源副大臣と会談を行い、水分野に係る意見交換を行いました。また、齊藤国土交通大臣とカンボジアのリム・キアンハオ水資源気象大臣は、岸田総理大臣とフン・セン首相の立ち会いのもと、水及び気象分野に関する協力覚書に署名しました。

※上記「1.」「2.」について、詳細は別紙のとおりです。

【問い合わせ先】

○アジア・太平洋水サミット関係

水管理・国土保全局水資源部水資源計画課 茨木
(内線 31-315) 直通 03-5253-8390、FAX 03-5253-1582

○二国間会談関係

総合政策局海外プロジェクト推進課 富澤
(内線 25-803) 直通 03-5253-8315、FAX 03-5253-1562

【第4回アジア・太平洋水サミットの概要】

会 期：2022年4月23日（土）、24日（日）

開催地：熊本県熊本市 熊本城ホール

主 催：アジア・太平洋水フォーラム（会長：森喜朗元内閣総理大臣）
熊本市

テーマ：持続可能な発展のための水～実践と継承～

＜サミットの概要＞

本サミットは、アジア太平洋地域29カ国※の首脳級・閣僚級の方々のほか、国内外からオンラインも含めて多くの国や地域の代表が参加し、「持続可能な発展のための水～実践と継承～」という全体のテーマのもと熱心に議論がなされました。

開会式では天皇陛下より記念講演を賜り、その後に行われた首脳級会合では、岸田総理大臣より、「熊本水イニシアティブ」が発表され、参加国首脳の決意表明である「熊本宣言」が採択されました。

また、熊本宣言における首脳級からの問いかけに対し、具体的なアクションを議論する9つの分科会と4つの統合セッションが実施され、閉会式において、その問いかけに対する回答を総括した議長サマリーが発表され、「第4回アジア・太平洋水サミット」は閉幕しました。

※首脳級会合・ハイレベルステートメントの参加国数（日本を含めると30カ国）



首脳級会合冒頭の様子

1. 第4回アジア・太平洋水サミット関係

【開会式】

開会式には、岸田総理大臣、森アジア・太平洋水フォーラム会長、斉藤国土交通大臣らが登壇し、主催者である森会長の開会挨拶、天皇陛下のおことば（オンライン）、岸田総理大臣の挨拶、グテーレス国連事務総長の挨拶（ビデオメッセージ）、ユースによるサミット開始宣言等が行われた。

また、「人の心と水～信仰の中の水に触れる～」をテーマに、天皇陛下による記念講演（オンライン）を賜った。



開会式の様子

（天皇陛下のおことば）

【首脳級会合】

岸田総理大臣による基調演説において、「熊本水イニシアティブ」を発表し、我が国の先進技術を活用した「質の高いインフラ」整備等を通じて、水関連の社会課題解決の加速化に、積極的に貢献していくことを表明した。この「熊本水イニシアティブ」は、参加国首脳級により採択された「熊本宣言」において支持された。

その後、海外の17か国の首脳級（対面4カ国、オンライン2カ国、ビデオメッセージ11カ国）によりステートメントが述べられた。

（「熊本水イニシアティブ」へのリンク）

https://www.mlit.go.jp/mizukokudo/mizsei/mizukokudo_mizsei_fr2_000034.html

（「熊本宣言」へのリンク）

<https://apwf.org/kumamoto-2022-jp/>



岸田総理大臣による基調演説における「熊本水イニシアティブ」の発表

【特別セッション「ショーケース」】

齊藤国土交通大臣が開会挨拶を行い、アジア太平洋地域の水問題の解決に向けた国土交通省の貢献可能な取組を紹介した。続いて、スリランカのスリワルダナ灌漑・水資源省灌漑局長、インドネシアのバスキ公共事業・国民住宅大臣、フィリピンのサレス科学技術省11地区局長、熊本市大西市長からショーケースとして、各国・地域の流域・水資源管理の取組が紹介された。

パネルディスカッションでは、ハン・スンズ博士（水と災害ハイレベル・パネル（HELP）議長）、上川衆議院議員・水制度改革議員連盟代表、世界銀行マリア・アンジェリカ・プラクティスマネージャー、マレーシア国民大学ジョイ・ペレイラ教授が参加し、科学技術の知識と現場の経験の重要性の観点からコメントが述べられた。



特別セッション「ショーケース」の様子

【分科会】

（1）地下水を含む健全な水循環

中山国土交通副大臣の閉会挨拶において、健全な水循環の維持・回復を図ることは、社会の持続可能性、強靱性、包摂性を保つ上で、最も重要な要素の一つであることを発信した。このほか、内閣官房水循環政策本部の三橋事務局長ほか5人から発表が行われ、熊本大学川越教授及びアジア太平洋水文水資源協会の寶事務局長により健全な水循環の維持・回復には多様な主体による連携が必要であることなどが提案された。



分科会「地下水を含む健全な水循環」における中山国土交通副大臣挨拶

(2) 水源から海までの水と環境

水源から海までの水循環の重要性が国連のピーター・トムソン海洋担当事務総長特使から示され、カザフスタンのブケレシェフ生態系・地質・天然資源大臣がアラル海の自然再生、三日月滋賀県知事が母なる琵琶湖の水質保全を報告した。さらに、中国、メコン川委員会、インドネシア、(独)土木研究所の取り組みの報告、パネルディスカッションが行われた。これらを踏まえて、最後に加藤政務官から分科会のとりまとめが行われるとともに、継続的な生態系調査やグリーンインフラの推進の重要性を発信した。



分科会「水源から海までの水と環境」の様子

(3) 水と衛生/污水管理

セッション冒頭に中山国土交通副大臣より、水と衛生は健康の基礎であり、都市への投資促進につながる下水道整備・管理の重要性を発信した。また、国際協力機構やUN-HABITAT、日本をはじめとするアジア各国の政府代表やアジア開発銀行等が参加し、持続可能な污水管理の実現に向けて、法制度や費用負担、住民関与の重要性等について議論がなされた。



分科会「水と衛生/污水管理」における中山国土交通副大臣挨拶

【統合セッション】

(1) 科学技術

小池 ICHARM センター長がモデレータを務め、科学技術における分野間協働の確立、科学と社会の間の協働の促進、そのための人材育成について検討を行うためにセッションが行われた。井上水管理・国土保全局長は、行政の立場から、「科学技術のサポートによる質の高いインフラストラクチャー」と題して、気候変動の影響を反映した治水計画の改訂、既存ダムの効果的な運用などの取組を紹介するとともに、科学技術に基づく意思決定や人材育成の重要性を発信した。最後に、成果として、特に観測、モデリング、データ統合に焦点を当てたオープンサイエンス政策を加速することによる水循環のレジリエンスの促進、「ファシリテーター」の育成、エンドツーエンドのアプローチを取りながら様々なレベルの分野やセクターを超えた協力が重要であると取りまとめられた。



統合セッション「科学技術」における井上水管理・国土保全局長のキーノートスピーチ

(2) ガバナンス

三橋水資源部長の司会進行のもと、セッションが行われた。冒頭、中山国土交通副大臣より、「水ガバナンスの強化に向けた日本の取り組み」と題した開会挨拶を行い、2014年に水循環基本法を制定し、水循環政策本部による関係省庁の施策の総合調整等を行う体制を整備したこと、治水対策については昨年度、流域治水関連法を制定し、これまでの河川整備を加速することに加え、流域全体で共同して取り組む「流域治水」を推進していることを発信した。

本セッションの成果として、2030年までにアジア太平洋地域の水の安全の達成に向け、関係者との最適な協調を含む水ガバナンスを前進させることを確認した。



統合セッション「ガバナンス」における中山国土交通副大臣挨拶

(3) ファイナンス

嶋崎国際河川技術調整官の司会進行のもと、セッションが行われた。冒頭、ニータ・ポクレル・アジア開発銀行水セクターチーフ、竹谷国際協力機構防災分野特別顧問からの基調講演に続き、メルカド・フィリピン国公共事業道路省長官からのハイレベル・スピーチが行われ、フィリピン国における防災投資の拡大等の取組が紹介された。続くパネルディスカッションでは、世界銀行、OECD、世界水パートナーシップから専門家が参加し、コロナ禍後の世界でどのように水セキュリティ確保のために投資を最大化するかについて議論が行われた。



統合セッション「ファイナンス」におけるメルカド・フィリピン公共事業道路省長官のスピーチ

(4) 総括統合セッション

ハン・スンス博士（水と災害ハイレベル・パネル（HELP）議長）と上川衆議院議員・水制度改革議員連盟代表が共同議長となり、統合セッションの議論を総括した。



総括統合セッションの上川共同議長の発言

【閉会式】

総括統合セッション共同議長であるハン・スン博士（水と災害ハイレベル・パネル（HELP）議長）と上川衆議院議員・水制度改革議員連盟代表からセッション報告が行われた。

また、マーク・パスコーAPWF 執行審議会議長から議長サマリーが発表された。

中山国土交通副大臣は、閉会にあたっての齊藤国土交通大臣挨拶を代読し、岸田総理大臣が発表した「熊本水イニシアティブ」を、国土交通大臣・水循環政策担当大臣として着実に実行していくこと、並びに本サミットの成果を今後開催される様々な国際会議の場における議論に反映すべく努力することを述べた。



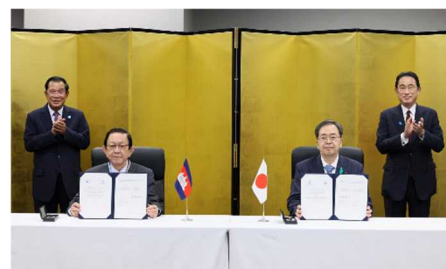
閉会式における中山国土交通副大臣による大臣挨拶の代読

2. 二国間会談関係

（1）国土交通省とカンボジア水資源気象省との水及び気象分野に関する協力覚書 署名式

齊藤国土交通大臣とカンボジアのリム・キアンハオ水資源気象大臣は、岸田総理とフン・セン首相の立ち会いのもと、水及び気象分野に関する協力覚書に署名した。

今後、本覚書に基づき、総合水資源管理、流域マネジメント及び水循環計画、ダムの点検・管理・運用及び再生、水資源に関するリスクマネジメントを含む水資源開発計画、気象の各分野における二国間の協力を強化することに合意した。



カンボジア水資源気象省との協力覚書署名式

（2）齊藤国土交通大臣とインドのシェカワット水活力大臣との会談

齊藤国土交通大臣は、インドのシェカワット水活力大臣と会談を行った。会談では、インドが直面する地盤沈下や水資源枯渇などの課題とその対応、下水道整備による水環境の改善等について意見交換した。

また、2019年に締結された日インド間における水資源分野の協力覚書に関する今後の協力等について議論を行い、今後二国間の水分野における協力関係を深めることで一致した。



シェカワット水活力大臣との会談

(3) 齊藤国土交通大臣とインドネシアのバスキ公共事業・国民住宅大臣との会談

齊藤国土交通大臣は、インドネシアのバスキ公共事業・国民住宅大臣と会談を行った。会談では、総理基調演説でも議題に上がったダム最適化について、現在日本の協力のもとで進めているダム再生を引き続き支援していくことで認識を共有した。

また、インドネシアの首都移転における基礎インフラ整備について、国際協力機構が派遣している専門家等を活用しながら情報共有していくことを確認した。



バスキ公共事業・国民住宅大臣
との会談

(4) 中山国土交通副大臣とウズベキスタンのナザロフ・アジムジョン水資源副大臣との会談

中山国土交通副大臣は、ウズベキスタンのナザロフ・アジムジョン水資源副大臣と会談を行い、本サミットへの副首相・副大臣の対面での参加に謝意を表した。ナザロフ副大臣は、今後、ダム等を含めた水分野における両国の協力関係の深化について言及した。



ナザロフ・アジムジョン水資源
副大臣との会談